

地域特性を活かした地域計画及び施設設計の手法に関する研究

Regional Planning and Facility Design Method Making Use of Regional Characteristics

(研究期間 平成9～13年度)

環境研究部河川環境研究室

Environment Department River Environment Division

室長

Chief

研究官

Researcher

安田 佳哉

Yoshiya YASUDA

田中 伸治

Shinji TANAKA

To construct infrastructures suitable for the region and to make beautiful land, a method of making use of regional characteristics must be developed. The authors surveyed examples of construction work of town facilities and analysed of which points should be cared in making regional planning and designing facilities with regional characteristics.

[研究目的及び経緯]

従来の社会資本整備の結果、全国各地で画一的な街並みが生まれたという反省から、地域の個性を活かした魅力ある地域づくりに対する要望が高まっており、これをすすめることは美しい国土を形成する上でも非常に重要である。地域らしさを踏まえた質の高い社会資本整備を図っていくためには、それぞれの地域の特性を総合的に施設整備に活かしていくための手法を確立する必要がある。

そこで本研究では、まちづくり事例として「手づくり郷土賞」の受賞事例をとりあげ、地域特性への着目、デザイン化の方法、整備のプロセス及び整備後の事後評価について調査し、現状のまちづくりにおける課題を分析・整理した。

[研究内容]

手づくり郷土賞の325事例を取りあげ、各事例について地域特性活用の視点から整理を行った。その結果、表1のように①地域の自然・歴史・文化のイメージを活かした事例、②地域の自然や地場の産品を活かした事例、③地域に現存する歴史的・文化的な施設を保存・活用した事例、の大きく3つに分類された。整理の結果、町並み、遊歩道、河川沿道や公園、広場については地域のイメージをコンセプトまたはデザイン化した事例が多い傾向がみられた。これらの対象は空間的な広がりをもっており地域特性の活用が比較的容易であったためだと考えられる。また、歴史的・文化的な施設の活用例がすべての対象について比較的多くみられ、地域に埋もれた施設の再認識などが地域特性の活用につながる可能性も考えられる。

次に、地域特性を活かした景観形成を行う際に配慮すべきポイントを既存の文献(道路・街路・橋・水辺の景観・デザインマニュアル等)を参考に整理した。ポイントとし

表1 事例分類表

分類項目	シナペル	対象							計
		町並み 遊歩道 河川沿道	公園 広場	橋梁	土木 構造物 (橋梁以外)	建造物	その他		
地域の自然・歴史・ 文化のイメージを 活かした事例	地域のイメージを コンセプトとした整備	33 (10%)	38 (12%)	4 (1%)	2 (1%)	12 (4%)	0 (0%)	89 (27%)	
	地域のイメージを施設 デザインに取り入れた整備	31 (10%)	19 (6%)	19 (6%)	1 (0%)	1 (0%)	4 (1%)	75 (23%)	
	地域のイメージを施設に 取入れて取り入れた整備	10 (3%)	10 (3%)	4 (1%)	1 (0%)	0 (0%)	3 (1%)	28 (9%)	
	地域の自然や地場の 産品を活かした事例	3 (1%)	2 (1%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	5 (2%)	
地域に現存する歴史的・ 文化的な施設を保存・ 活用した事例	地域の自然や地場の 産品を活かした整備	15 (5%)	17 (6%)	6 (2%)	0 (0%)	6 (2%)	1 (0%)	45 (14%)	
	地域に現存する歴史的・ 文化的な施設を保存・ 活用した事例	20 (6%)	14 (4%)	14 (4%)	18 (6%)	14 (4%)	1 (0%)	81 (25%)	
その他		1 (0%)	0 (0%)	1 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	2 (1%)	
計		113 (35%)	100 (31%)	48 (15%)	22 (7%)	33 (10%)	9 (3%)	325 (100%)	

ては、各文献に記載のある「地域特性を取り入れた景観整備に際して配慮すべきポイント」に着目し、今回ヒアリングを実施した事例について評価を行った。その結果を表2に示す。「地域特性を取り入れた景観整備を行う際に配慮すべきポイント」からの評価では、「地域イメージに対する配慮」「地域の歴史的環境に対する配慮」についてほとんどの事例で行われており、「周辺の景観資源に対する配慮」については、周辺の色彩及び景観の連続性に対する配慮はいくつかの事例でなされているものの、周辺の自然景観や遠景要素、地形に対する配慮はほとんど行われていない状況である。これらのことより、地域特性を活かした景観形成を行う際には、一つの事例に対し様々な観点から地域特性を取り入れる配慮が行われているが、基本的なデザインの技法に必ずしもものつとっているとはいえず、この点を改善することでデザイン的に短絡的なものや過剰演出となることを防ぐことができると考えられる。

また、調査事例について、計画づくりやデザイン化のプロセス、行政担当者及び設計に関わった専門家の所在等についてアンケート及びヒアリングを行い、参画状況とその

